

健康通信

市民病院より

問合先 市民病院 (☎76-4131)

◆お知らせ 市民病院職員募集

- 職種** 助産師・看護師
採用予定人数 50人程度
対象 「助産師または看護師資格取得者」、「平成25年3月助産師または看護師資格取得見込者」で昭和38年4月2日以降に生まれた方
- ※資格取得者は平成25年1月(昭和38年1月2日)以降に生まれた方の採用も可能です。
- 採用** 平成25年4月1日付け勤務
- ▼病棟勤務 3交替と2交替
 - ▼外来・手術室勤務 2交替
- 提出書類**
- ・履歴書(写真貼付)
 - ・卒業証明書または卒業見込証明書
 - ・資格免許証の写し(資格取得者のみ)
- 試験**
- ▼内容 適性検査、面接
 - ▼とき 12月5日(水)午前8時30分～
 - ▼ところ 市民病院2階小会議室
- ※1月以降の毎月5日に同様の試験あり
- 申込・問合先** 11月29日(木)(必着)までに、郵送または直接病院総務課(〒485-1852 0住所 不要☎76-4131)

話し合う行為」が重要とされています。この話し合うプロセスを医療用語で「アドバンスケアプランニング・Advance Care Planning (ACP)」と言います。

こうした話し合い(ACP)の効果として、患者さんやご家族にとって心理面により影響を及ぼし、希望する場所で最後まで過ごすことができる可能性が高まり、患者ご家族―医療者の協力関係がより強化されること、終末期の療養において満足感が高くなり、遺族の不安などが軽減されると報告されています。

エンディングノート

自分自身の人生の終盤の過ごし方について、病院で突然に医療者と話し合いを行うことは、とても難しいと思われる。そのためには、まず家族との話し合いの場をもつてみてはどうでしょうか。家族と話し合いを行うための一つのツールとして「エンディングノート」が有効です。エンディングノートは、自分自身が大切にしてきたことや気がかりといった信長的な話題や、銀行口座や会員番号などの個人情報について、葬儀はどのようにし

最近、マスメディアにおいて「終活」という話題がよく取り上げられています。葬儀など最期の準備を自分自身でしようとする人達が増えてきており、そうした活動を「就職活動」を略した「就活」にかけて、「終活」と呼んでいるようです。

医療の現場でも、患者さんやご家族と将来の意思決定能力の低下に備えて、あらかじめ今後の治療や療養について話し合うことの重要性が認識されてきています。具体的には、①患者さんご家族の現在の気がかり②患者さんの価値観や目標③現在の病状や今後の見通し④治療や療養に関する選択肢などについての話し合いを行うことです。こうした話し合いは、「リビングウィル」や「事前指示書」など延命処置や点滴などについての自分の意思をあらかじめ書面しておくことを目標にしている訳ではなく、「医療者と患者、家族が



▲緩和ケア科医長 わたなべ ひろあき 渡邊 紘章

自分の人生を生きる

「死ぬまでちゃんと生きていきます」とは、あるがん患者さんの言葉です。その方は自分自身で、最期を迎えるにあたっての準備を行い、自分の生き方が死ぬまで守られるようにしておられました。それは同時に残される家族が困らないようにする為の準備でもあります。

元氣な時こそ、率直に家族で「どのように生きるか」話し合うチャンスです。この秋、家族みんなで「終活」してみませんか。